

# 水を治める

—大和川のつけかえと治水—

2012年9月25日(火)  
~12月9日(日)

史跡高井田横穴特別公開

10月20日(土) 10:00~15:00

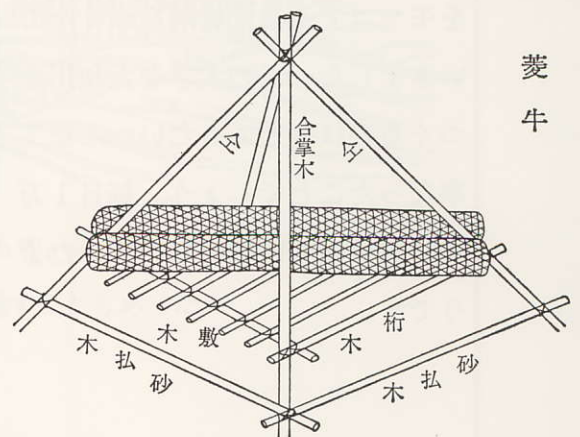


月曜休館、入館無料、9:30~16:30 開館

交通 JR大和路線高井田駅から徒歩5分  
近鉄大阪線河内国分駅から徒歩15分

## 柏原市立歴史資料館

大阪府柏原市高井田 1598-1  
電話 072-976-3430



菱牛







## つけかえ後の大和川

もとの大和川のあとは、田や畑として生まれ変わりました。これを新田といいます。新田では、綿がたくさんつくられました。これで、洪水の心配もなくなりました。

ところで、新しい大和川の近くではどうなったでしょう。新しい川の近くに住む人たちは、大和川のつけかえに反対していました。そして、つけかえられたあと、やはり心配していたことが、次々とおこるようになりました。田や畑をなくしてしまった人たちもたくさんいました。それまでなかった洪水で苦しむようになった人たちもいます。川の北と南に分かれてしまった村もありました。

そして、新しい大和川の近くの村では、洪水をおこさないように堤防を守るという仕事がふえました。堤防を見回り、あながあいているところやくずれているところをみつけると、すぐに修理しなければなりません。大きな工事は、ほかの村から手伝いの人やお金を出してもらえるのですが、小さい工事は自分たちで行いました。

## 川を守る

洪水がおこらないようにするためには、堤防を守らなければなりません。川の流れを弱くしたり、堤防にあたる水のいきおいを弱くするために、川の中に杭を打ちならべることがありました。また、木材を組んだピラミッドのようなものを置くこともありました。これを水制といいます。杭を打ちならべることを杭出し、または乱杭などといいました。木材を組んだものは、そのかたちから牛とよばれました。ピラミッド形のもは菱牛といいます。大和川に杭出しがあることは以前から知られていましたが、牛は使われていないと考えられていました。このたび、国分の古い家に残されていた史料に、牛が置かれるようになったようすが記録されていることを発見しました。このようにして、堤防がつぶれないように守っていたのです。

それでも、洪水がおこっています。つけかえ地点の築留でも、正徳6年(1716)に堤防がつぶれています。大和川の左岸(南側)や河口では、くりかえし洪水がおこっています。地震や洪水による被害がくりかえされるなか、わたしたちも昔の人の知恵に学んで、防災に取り組むことがたいせつではないでしょうか。



杭出し水制 杭出し、乱杭などといひ、川の中に杭を打ち並べたもの。水の流れる向きを変えたり、堤防にあたる流れを弱くすることができる。杭の間に、竹や木の枝を通すこともあった。



## 水制で堤防を守る

かしわらしこくぶいちば しばやま  
柏原市国分市場の芝山のところで、  
やまとがわは大きく北へ曲がっています。  
この場所は、川が曲がっているため、  
どうしても水のあたりが強くなり、  
ていぼう  
堤防がこわれやすかったところ。  
むし こうずい  
昔から洪水がくりかえされていたよう  
で、しばやま  
芝山の南が池のようになっていた  
こともあったようです。

そのようすがよくわかる4枚の絵が  
あります。1～3の絵は、わかりやす  
くするために北を上にしてあるので、  
もじ  
文字は逆になっています。てんめいがんねん  
天明元年  
(1781)ごろには、川の中にもていぼう  
堤防が  
つくられ、流れを弱くするためにれつ  
5列  
の杭出しがあったようです(1)。と  
ころが、かんせい  
寛政4年(1792)にこの川  
の中のていぼう  
堤防がくずれ、畑に水が流れ  
こんでしまいました。そこで、ひしうし  
菱牛  
(菱杵)を置いてていぼう  
堤防がつぶれたと  
ころに水が流れないようにし、たいがん  
対岸に  
は石をつめた蛇籠をつみあげました  
(2)。ところが、かんせい  
寛政7年(1795)には、水が大きく曲がって、川の中の  
ていぼう  
堤防はすっかりつぶれてしまい、畑  
にも水が流れこむようになりました  
(3)。そのため、ひしうし くい  
菱牛や杭の数をふや  
して、水の流れをかえることにしまし  
た(表紙)。

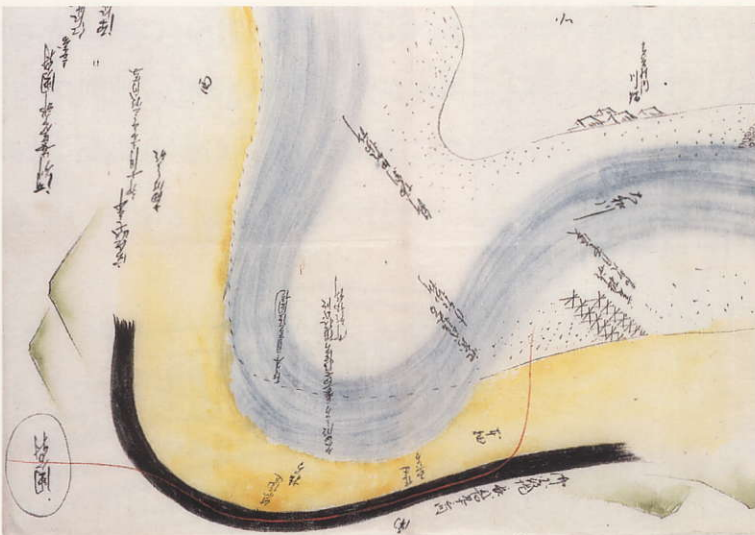
この4枚の絵図をみていると、杭を  
打ったり、ひしうし  
菱牛を置くなど、こうずい  
洪水とた  
たかう人たちのくろう  
苦労がよくわかりま  
す。また、やまとがわ ひしうし  
大和川に菱牛が使われてい  
たことを示すたいせつな史料です。



てんめいがんねん  
1, 天明元年(1781)ごろのようす。



かんせい  
2, 寛政4年(1792)に、川の内側の堤防がつぶれたようす。



かんせい  
3, 寛政7年(1795)のようす。(水の流れが変わってしまっ  
ている。)